

とりもどしたい

家族の絆

きずな

熊本の拉致被害者

松木薫さん

かおる

この冊子（さつし）の話は、政府認定の北朝鮮による※拉致被害者（らちひがいしゃ）である松木薫（まつきかおる）さんの姉、斎藤文代（さいとうふみよ）さんへのインタビューに基づき作成（もじじ）しました。
※拉致：むりに連れて行くこと。

□ 薫は家族のたからもの かおる

昭和二十八年（1953年）六月十三日—
薫は私達（わたしたち）の五番目のきょうだいとして生を受
けました。

女ばかりのきょうだいの中で薫は父からも母からもよいところばかり貰（もら）ったのか、おとなしくてよく言いつけも守る子供（こども）でした。

私の両親は共働きでした。私たちは少しでも母の手伝いをしようと思
い、一緒に青果市場（そうじ）にお掃除に行きました。薫はまだ小さかったので、お
ぶってつれて行きました。

「おじちゃん、お掃除させてください。」
「いいよ。」

掃除が終わると、たくさんの大根やひ
びの入った西瓜（すいか）というような野菜を頂（いただ）き
ました。私達はそれを持ち帰って家で※
七輪（しちりん）を起こしながら、両親の帰りを待ち
ました。

夕食はどんなに遅（おそ）くなくても父の帰りを待つて食べていました。時には十
時を過ぎることもありましたが、母が

「お父さんはお仕事で働いているんだから待ちましょうね。」
と言って、みんなで待ちました。

私達きょうだいは、父の膝（ひざ）に座るのが大好きで、先を争って座ってしまし
たが、最後はいつも薫でした。父は末っ子の薫がかわいくて仕方ないという
感じで抱（だ）っこしていました。



貧しくても幸せな家族でした。
※七輪：炭火をおこしたり、煮炊き
をしたりするために使う土をもとにし
てできたこんろ。

□ 薫の夢「留学」を

応援した父 えん

「お勉強したければ、父ちゃんはどんなに働いても苦にならないから、
お勉強したければ、どんだけでも頑張（がんば）って勉強していいよ。どんだけでも
父ちゃん頑張るよ。だから学校に行きたければ学校に行きなさい。」
と父は口癖（くせ）のように言っていました。

私達は全員高校まで卒業させても
らいました。

薫は勉強が好きでした。小さいと
きから一生懸命（けんめい）机（つくえ）に向かって本を読
んだり勉強したりしていました。薫
は父にお願いして大学に行かせても
らいました。

「お父さん、スペインへ留学に行かせ
てください！」

一年後には必ず帰ることを約束し、薫は念願のスペイン留学に行くこと
を決めました。

実は、薫は留学から帰ったら結婚することも決めていました。

「大学の先生からのすすめで、スペインに一年間留学し帰国したら、大学
の講師になるつもりだ。父の許しを得た。帰国したら、結婚しよう。」
留学前に薫は婚約者にそう話していたと聞きました。



こうして薫は期待に胸を膨らませ、スペインへと旅立ったのです。



□スペインで行方不明に

薫は、しばしば私たちに手紙を書いてくれました。昭和五十五年（1980年）の四月、私はマドリッドから薫の葉書を受け取りました。薫らしい思いやりのこもった葉書でした。しかし、これが薫からの最後の葉書となったのです。

「薫さんと連絡が取れなくなりました。」



ある日、薫の婚約者から父に電話がかかってきました。

「わしの所にもなんの便りもない。警察に毎日のように探してくるよう頼みに行っているのだが。」

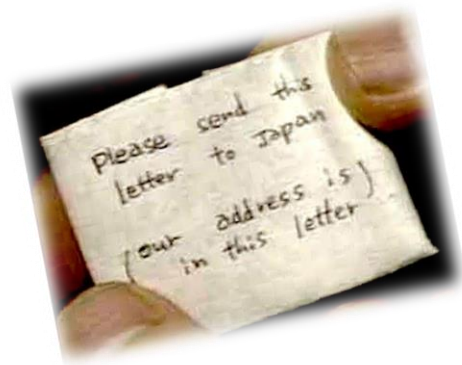
婚約者とお父さんの手紙や電話でのやり取りは何度となく続きました。

父は毎日のように交番に通い、薫について何か分からないか尋ねていました。しかし、何も情報がないまま月日が過ぎていきました。

□北朝鮮からの秘密の手紙

※失踪から八年の月日が経ったある日—一通の手紙が私たちの元に衝撃的な事実をもたらしました。薫は北朝鮮からの指示を受けた日本人に拉致され、他の日本人と一緒にいることが書かれていたのです。薫はなんと北朝鮮に捕らわれていたのです。

※失踪：行方がわからなくこと。



北朝鮮から届いた実際の手紙



□日本人を拉致して工作員の

教育係をさせていた北朝鮮

北朝鮮政府の指示で、ヨーロッパで留学中の日本人青年をだまして北朝鮮に送り込む活動が行われていたのです。薫は標的になったのです。

薫は、北朝鮮の学校で日本語の教師をさせられていたと聞きました。

日本政府の調査団が北朝鮮を訪問したとき、調査に応じてくれた薫の教え子と称する人は次のように証言しています。



「薫先生は、はにかみやでした。教え方が丁寧でやさしかったです。日本のテレビドラマ『出航』を使って日本語や家族の絆の大切さを教えてくれた。」

□拉致被害者救出を求める活動始まる

北朝鮮に薫がいる―私たち家族は必死に救出のための活動を始めました。

拉致被害者は日本全国にいたことが分かり、私たち被害者家族は「家族会」を結成しました。また、「家族会」を支え拉致被害者の帰国を実現するための「救う会」も結成されました。

私達は街頭での署名活動をしたり、講演会を開催したりして、広く国民に拉致問題について知らせていき、救出のために協力してもらえようという訴え続けました。



拉致被害者の家族による「家族会」結成

―そして平成十四年(2002年)、日本政府が北朝鮮政府と交渉した結果、北朝鮮政府はそれまで決して認めなかった日本人拉致を初めて認めたのです。

拉致被害者の帰国がようやく実現しました。しかし、帰国した被害者は五名。薫の姿はそこにはありませんでした。



写真提供:共同通信

北朝鮮から帰国した拉致被害者の方々



街中で行われる救出のための署名活動

□待つ家族

あれほど薫を可愛がっていた父が死去した後、母は※認知症を発症し※徘徊も始まりました。母から

「薫はどこにいるの。」

と聞かれ、私が

「海の向こうで元気にしているから。」

と答えたら、それから母は、毎日バス、電車に乗り継ぎ、海岸に行き、暗くなるまで海を見つめていました。夕暮れどき、親切な方から

「おたくのお母さんではありませんか。」と電話をいただき、迎えに行く毎日になりました。

母は病院で薫を待ちましたが、平成二十六年(2014年)一月十一日、父の元へ旅立ちました。

もう時間がありません。父も母もこの世を去りました。拉致被害者も、待っている家族ももう年齢を重ねています。

薫は私達家族の宝ものです。

私たちは一人一人がなくてはならない、かけがえのない存在としてこの世に生を受けたのです。

どうか薫のことを忘れないでください。そして救出に協力してください。皆さんと共に薫が日本に、熊本に帰ってくる日を願います、私たちは救出活動を続けます。

※認知症：通常できていた日常生活や仕事ができなくなる事。

※徘徊：あてもなく、うろろ歩きまわること。



一日も早い



帰国実現を！

□ 齋藤文代さんからのメッセージ

↳ 拉致被害者全員を、必ず救出しましょう！

私の弟、松木薫は、昭和二十八年（1953年）に生まれま
した。昭和五十五年（1980年）スペイン語を学ぶために留学
した、スペインのマドリッドで、北朝鮮からの指示を受けた日本
人にだまされ、北朝鮮に連れて行かれました。それから三十
七年、自由をうばわれ熊本に帰ることができていません。薫の
ようにだまされて北朝鮮に連れて行かれた人や、力づくで連
れ去られた日本人など、北朝鮮による拉致被害者といわれる
人たちは日本政府が認めている人だけで十七名、他にもその疑
いがある人が数百名いると言われています。その中には昭和五
十二年（1977年）学校帰りに自宅近くで拉致された新潟市
の当時中学一年生だった横田めぐみさんもいます。このお話は、
拉致被害者である弟松木薫と私達家族のことを、皆さんにも、
もっと知ってもらい、弟の救出を応援してもらいたいと願ってま
めました。

現在、日本政府は北朝鮮に拉致された被害者として十七名
を認定していますが、さらに、北朝鮮による拉致の可能性を排
除できない八百八十三名（2017年4月現在）に関して、国
内外からの情報収集や捜査・調査が続けられています。日本で
待ちわびる被害者家族が次々と亡くなる中、これまで帰国を
果たしたのは五名とその家族七名だけです。

平成二十九年（2017年）五月参議院拉致問題特別委員
会に参考人として出席した私は、証言を次のように締めくく
りました。これが私の一番言いたいことです。

「薫は生きています。私は信じています。拉致被害者を日本
に帰国させるためには、北朝鮮が拉致を認めて真相を明らか
にし、拉致被害者の安全、生命を確保しなければなりません。
もう北朝鮮にいる家族も日本にいる家族も時間がありません。

時々心が折れそうになります。朝、目が覚めたら、今日も
頑張れるのかなという日が多くなりました。でも、負けませ
ん。倒れるまで何でもしたいと思っています。薫を日本に連れ戻
すことができず申し訳ないと思いますが、乗りかかった船です。
目的地に着くまではこぐしかありません。

薫を抱きしめる日まで、国民の皆様、今ここにおられる参議
院の先生方、私たちの家族の再会まで一緒に闘たたかっていただ
けることを願って、参考人の言葉といたします。」



街中で救出を訴える齋藤文代さん

□拉致問題Q&A

◆北朝鮮とはどのような国？

北朝鮮では、建国以来、朝鮮労働党の一党支配が続いています。平成二十三年（2011年）十二月、最高指導者として強い力を持っていた金正日（キムジョンイル）国防委員長が死去し、金正恩（キムジョンウン）国防委員会第一委員長（現在は朝鮮労働党委員長）が中心となった体制に移行しました。

北朝鮮では、近年、水害や※干ばつによる被害が続ぎ、深刻な食糧難やエネルギー不足が起きています。にもかかわらず、多くの資金を軍事予算に投じ核兵器などを開発しているのです。また、国連等の報告書では、日本の他にも、韓国、レバノン、タイ、マレーシア、フランス、イタリア、オランダ、中国といった国々で拉致が行われた可能性があり、拷問・公開処刑や強制収容所の存在、思想・言論・移動の自由に対する制限など、北朝鮮における人権侵害の存在が指摘されています。

◆北朝鮮による日本人拉致とは？

1970年代から1980年代にかけ、多くの日本人が不自然な形で行方不明となりました。日本当局による捜査や、亡命北朝鮮工作員の証言により、これらの事件の多くは北朝鮮による拉致の疑いが濃厚であることが分かりました。

にもかかわらず、北朝鮮側は頑なに否定しつづけ、平成十四年九月の日朝首脳会談においてようやく初めて拉致を認めるに至りました。この会談の後、日本政府が認定していた十七名の拉致被害者のうち、五名が帰国しました。しかし、北朝鮮は残りの八名は死亡、その他四名は※入境していないとし、詳しい調査もせず、現在まで納得のいく説明がなされていません。

◆なぜ北朝鮮は日本人を拉致したの？

北朝鮮は、昭和二十八年（1953年）朝鮮戦争の休戦後も、韓国を社会主義化して朝鮮半島を統一しようとしてきました。しかし、当時韓国は、北朝鮮による統一工作に注意しており、韓国人をよそおって北朝鮮から韓国にスパイを送り込むことは難しかったので、日本人をよそおって韓国にスパイを送り込むという方法を考えたのではないかといわれています。

なお、北朝鮮側の説明では、日本人を北朝鮮に連れ去った上で、北朝鮮のスパイをその日本人になりすませたり、その日本人を北朝鮮のスパイに日本の習慣や日本語を教える先生にしたりするため拉致したといっています。

※干ばつ：長い間、雨が降らず農作物に必要な水がかかれてしまうこと。

※入境：国境をこえて国に入ること。


拉致されている人々

必ずとりもどす。


1 1977年9月19日
宇出津(うしつ)事件
久米 裕さん
(52・石川県)
石川県宇出津海岸付近にて失踪。安否未確認。(北朝鮮は入境を否定)




2 1977年10月21日
女性拉致容疑事案
松本 京子さん
(29・鳥取県)
自宅近くの編み物教室に向かったまま失踪。安否未確認。(北朝鮮は入境を否定)




3 1977年11月15日
少女拉致容疑事案
横田 めぐみさん
(13・新潟県)
新潟市において下校途中に失踪。安否未確認。(北朝鮮は「自殺」と主張)



4 1978年6月頃
元飲食店店員拉致容疑事案
田中 実さん
(28・兵庫県)
欧州に向け出国した後失踪。安否未確認。(北朝鮮は入境を否定)



5 1978年6月頃
李恩恵(リ・ウネ)拉致容疑事案
田口 八重子さん
(22・不明)
安否未確認。(北朝鮮は「交通事故で死亡」と主張)



6 1978年7月7日
アベック拉致容疑事案
地村 保志さん
(23・福井県)
地村 富貴恵さん
(旧姓: 濱本) (23・福井県)
「二人でデートに行く」と言って出かけて以来、失踪。
2002年10月帰国。




7 1978年7月31日
アベック拉致容疑事案
蓮池 薫さん
(20・新潟県)
蓮池 祐木子さん
(旧姓: 奥土) (22・新潟県)
蓮池さんは「ちよっと出かける。すぐ帰る」と言って外出したまま失踪。同様に奥土さんも外出したまま失踪。
2002年10月帰国。




8 1978年8月12日
アベック拉致容疑事案
市川 修一さん
(23・鹿児島県)
増元 るみ子さん
(24・鹿児島県)
「浜に夕日を見に行く」と言って出かけたまま失踪。安否未確認。(北朝鮮は「心臓麻痺で死亡(市川さんは海水浴中)」と主張)





9 1978年8月12日
母娘拉致容疑事案
曾我 ひとみさん
(19・新潟県)
曾我 ミヨシさん
(46・新潟県)
「2人で買い物に行く」と言って出かけて以来失踪。
ひとみさんは2002年10月帰国。
ミヨシさんは安否未確認。(北朝鮮は入境を否定)





10 1980年5月頃
欧州における日本人男性
拉致容疑事案
石岡 亨さん
(22・欧州)
松本 薫さん
(26・欧州)
欧州滞在中に失踪。安否未確認。(北朝鮮は石岡さんは「ガス事故で死亡」、松本さんは「交通事故で死亡」と主張)




11 1980年6月中旬
辛光洙(シン・グァンス)事件
原 敦晃さん
(43・宮崎県)
宮崎県内で発生。
安否未確認。(北朝鮮は「肝硬変」で死亡と主張)



12 1983年7月頃
欧州における日本人女性
拉致容疑事案
有本 恵子さん
(43・欧州)
欧州にて失踪。
安否未確認。(北朝鮮は「ガス事故で死亡」と主張)



■ 拉致被害者の失踪場所

- 北朝鮮は死亡と主張
- 北朝鮮は入境を否定
- 帰国

これ以外にも**800名**を超える人々が北朝鮮による拉致の可能性を排除できないとして、全国の警察が捜査・調査を続けています！
全ての拉致被害者の一刻も早い帰国を克ちとりましょう！

ブルーリボンバッジの意味

拉致被害者全員を返せ！
—あなたも意思表示を—



「救う会」
ブルーリボンバッジ

ブルーリボンバッジの色は、「空と海の青い色」に由来しています。
「近くて遠い国の関係である、日本と北朝鮮の間で、空と海だけが国境無しに続き、拉致被害者とその家族や日本人が空と海を見上げて、同時に無事再会の時を願う意思表示」を表しています。
拉致問題の解決を願う活動に賛成する人が胸につけています。